



コミュニケーション力

安城中部小学校校長 吉本 敦

季節の変わり目がやってきました。ついこの前まで咲いていた桜も、すっかりと花を落とし、新緑の季節へと変わり、時の経過を知らせてくれています。この先、熱中症を心配しなければならない時期がすぐそこまでやってきました。こまめな水分補給と運動をする時にマスクを外すことなど、学校でも熱中症対策の指導をしていきます。

さて、6月といえば梅雨。これから雨の降る日が多くなることでしょう。子どもたちは毎日、長い放課に運動場に出て元気に遊ぶことを楽しみにしていますが、それができなくなり、室内で放課を過ごすことが多くなるでしょう。そんな時、トランプやウノなどのカードゲームをしたり、机の上に置いた消しゴムを指ではじいて落としあったり、自作のすごろくを楽しんだり、子どもたちは自分たちで考えた遊び方で放課を楽しみます。ここで生まれてくるのが、子どもたちの「コミュニケーション力」になります。

子どもたちは、自分一人が楽しい思いをするのではなく、みんなで楽しむためにはどんな会話や、どんな行動が必要なのか考えています。授業中以上に、放課の時間は、子どもたちの「コミュニケーション力」が育っていると考えられます。時にはルールを無視したり、いざこざが起きたりして、けんかになることもあるでしょう。そんな時に「ごめんね。」と謝る言葉や「いいよ。」と許してあげる言葉も大切なコミュニケーションになります。学校という集団生活の中だからこそ身に付く力だと思います。

「コミュニケーション力」今の子どもたちにとっては、周りの友達と仲良く過ごし、今を楽しむためのスキルかもしれませんが、これが大人になってから、知識や学力以上に社会を営むうえで大切な力となることでしょう。

